



# 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年10月31日

上場会社名 トランス・コスモス株式会社  
コード番号 9715 URL <http://www.trans-cosmos.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 奥田 昌孝  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席常務執行役員兼CFO (氏名) 本田 仁志

TEL 03-4363-1111

四半期報告書提出予定日 平成29年11月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	126,640	8.3	1,841	51.1	1,440	57.2	238	91.3
29年3月期第2四半期	116,912	7.6	3,765	7.0	3,365	8.4	2,735	48.9

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 11,042百万円 ( %) 29年3月期第2四半期 3,392百万円 ( 118.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円銭	円銭
30年3月期第2四半期	5.74	
29年3月期第2四半期	66.24	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
30年3月期第2四半期	125,656	71,543	53.9	1,634.29
29年3月期	143,802	85,188	56.8	1,969.70

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 67,783百万円 29年3月期 81,695百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
29年3月期		0.00		52.00	52.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年3月期の配当予想は未定であります。

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】P.3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	48,794,046 株	29年3月期	48,794,046 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	7,318,151 株	29年3月期	7,317,754 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	41,476,096 株	29年3月期2Q	41,294,943 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 【添付資料】

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続いており、個人消費も持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外では、堅調な米国経済に加えて中国の経済にも持ち直しの動きが見られるものの、米国新政権の政策動向、英国のEU離脱問題における不透明感の高まり、中東情勢における地政学的リスクなど海外経済の不確実性の高まりに伴う景気の下振れ懸念があり、先行きは不透明な状況となっております。

当社グループが展開するサービスを取り巻く環境は、労働人口の減少、企業のグローバル化、スマートデバイス・SNSの普及などを背景に、業務の効率化やコスト競争力の強化、売上拡大などに繋がるアウトソーシングサービスの需要が拡大しております。このような状況の中、当社グループは、コンタクトセンター、バックオフィス、設計開発、デジタルマーケティング、ECなどの業務を中心としたサービスを積極的に展開し受注の増加につなげました。

一方で、新しいサービスの創出、サービス体制の強化を図り、将来の成長に向けた先行投資を実施しました。

新しいサービス創出への取り組みとしては、デジタルマーケティング、EC、コンタクトセンターを統合したDECサービス領域では、主要サービスのひとつとして注力している、「DECAds（デックアズ）」（デジタルデータを活用し、広告・マーケティングからサポートまでをトータルで提供する当社独自の広告メニュー）シリーズにつきまして、引き続き、機能やサービスラインナップの拡充を行いました。さらにAIを中心としたデジタル技術を活用したサービスにも注力しました。具体的には、対話型AI導入・運用を支援する「AIトータルソリューションサービス」の提供を開始しました。独自開発したオリジナル対話型AIツール「DECAI（デックエーアイ）」をはじめ、国内トップクラスのAIツール／エンジンを保有する企業各社との業務提携を通じて、お客様企業のニーズや課題、条件にマッチした最適なAIの導入を支援していきます。また、コミュニケーション領域に特化したAI研究所「Communication Science Lab」を設立し、同研究所と共同で「AIコピーライター 言葉 匠」（β版）を開発しました。機械学習や自然言語処理などのデータサイエンスを活用し、インフィード広告を中心としたテキスト広告のコピー生成支援システムとして2018年春頃からのサービス提供を開始します。その他、社会において影響力をもつインフルエンサーのプレミアムコンテンツをライブ動画で販売するECプラットフォーム「me&stars」を運営するミーアンドスターズ株式会社を設立し、新たにライブコマース事業を開始します。一方、BPOサービス領域においては、引き続き、最新のデジタル技術と創業から培ってきたオペレーショナル・エクセレンスをハイブリッドに融合したDigital BPO（R）サービスの開発、提供に注力しました。この一環として、連結子会社の応用技術株式会社と共同で、BIM（Building Information Modeling）トータルサービス「to BIM」の提供を開始しました。主に建設業界においてBIM導入を開始する企業からBIM活用を推進したい企業まで幅広くサポートします。

サービス体制強化への取り組みとしては、DECサービス領域においては、クラウド時代の新たな働き方を実現する、“電話をもたない”カスタマーサポートサービスの提供が可能な「DECAds Chat Edition for Cloud Working」を開発しました。オペレーターは、チャット対応スマートフォンアプリを自身のスマートフォンにダウンロードすることで業務を開始することが可能となり、空いた時間に働きたい、家に居ながら身につけたスキルを活かしたいなど、時間と場所を選ばない働き方を支援していくと共に、緊急対応、キャンペーンといったお客様企業ニーズに対応していきます。また、コールセンターサービス、チャットサポートサービス、インターネット広告プランニング等を行う「マーケティングチェーンマネジメントセンター仙台青葉」を新設、中国で8拠点目となるコンタクトセンター「上海第四センター」を新設するなど国内外におけるサービス拠点の拡充を行いました。BPOサービス領域においては、ものづくり支援を行うエンジニアリング事業に特化した「BPOセンター沖縄」を600席規模に拡張しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高126,640百万円となり前年同期比8.3%の増収となりました。利益につきましては、大型案件の立上コストや将来の成長に向けた先行投資などの影響により、営業利益は1,841百万円となり前年同期比51.1%の減益、経常利益は1,440百万円となり前年同期比57.2%の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は238百万円となり前年同期比91.3%の減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (単体サービス)

当社におけるアウトソーシングサービスの需要拡大などにより、売上高は99,089百万円と前年同期比5.8%の増収となりましたが、大型案件の立上コストや将来の成長に向けた先行投資などの影響により、セグメント利益は1,952百万円と前年同期比50.5%の減益となりました。

## (国内関係会社)

国内関係会社につきましては、一部子会社における受注の増加に伴い、売上高は9,561百万円と前年同期比3.2%の増収となり、セグメント利益につきましては、220百万円と前年同期比3.6%の増益となりました。

## (海外関係会社)

海外関係会社につきましては、中国、韓国におけるサービスの受注が好調に推移し、売上高は22,172百万円と前年同期比30.3%の増収となりました。一方、損益については、引き続き欧州における先行投資などがあり、セグメント損失331百万円(前年同期はセグメント損失406百万円)となりました。

なお、セグメント損益につきましては、四半期連結損益計算書における営業利益をベースにしております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて18,145百万円減少し、125,656百万円となりました。負債の部につきましては、4,501百万円減少し、54,112百万円となりました。また、純資産の部につきましても、13,644百万円減少し、71,543百万円となりました。

これらの主な減少要因は、当社の持分法適用関連会社の一部株式について、平成29年9月を譲渡予定日とした株式譲渡契約締結に係る会計処理を行っておりましたが、当第2四半期連結会計期間において、株式譲渡契約に不履行が発生したため、当該会計処理の戻入処理を行ったことによるものであり、各項目の内容は以下のとおりであります。

- ・資産の部、固定資産…「投資有価証券」の時価評価戻入による減少(戻入後、関係会社株式に振替)

当該譲渡契約に係る「デリバティブ債権」の取崩しによる減少

- ・負債の部、固定負債…「繰延税金負債」の減少
- ・純資産の部……………「その他有価証券評価差額金」の減少および「繰延ヘッジ損益」の取崩しによる減少

また、上記株式譲渡契約に係るもののほか、流動資産で「現金及び預金」、固定負債で「長期借入金」が減少しました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は、53.9%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ565百万円収入が増加し、3,777百万円の収入となりました。この主な要因は、「売上債権の増減額」が減少(売上債権の回収額の増加)したことと「法人税等の支払額」が減少したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ3,203百万円支出が減少し、4,333百万円の支出となりました。この主な要因は、「関係会社株式の取得による支出」が減少したことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ746百万円支出が増加し、4,268百万円の支出となりました。この主な要因は、「長期借入金の返済による支出」が増加したことによるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて4,111百万円減少し、29,311百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期については、引き続きお客様企業の売上拡大・コスト削減といったニーズに対し、より適合したサービスの創出に注力するとともに、中国、韓国、ASEANをはじめとしたアジア市場での事業展開を加速させ、前期実績を上回る業績を確保することを目指します。

なお、当社グループの事業は、あらゆる業種・業界のお客様との取引で成り立っており、変化の激しい経済環境の中、短期的な視点で企業活動の動向を見極めることは大変困難であります。よって、当社グループの平成30年3月期連結業績予想については、合理的な算定ができないため記載しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	33,866	29,773
受取手形及び売掛金	39,967	39,299
商品及び製品	2,047	1,831
仕掛品	581	851
貯蔵品	34	36
繰延税金資産	1,708	1,687
その他	4,370	5,219
貸倒引当金	△292	△338
流動資産合計	82,283	78,360
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,087	4,527
工具、器具及び備品(純額)	3,608	3,964
土地	828	829
その他(純額)	545	692
有形固定資産合計	9,069	10,014
無形固定資産		
のれん	3,818	3,683
ソフトウェア	1,857	1,913
その他	618	725
無形固定資産合計	6,294	6,322
投資その他の資産		
投資有価証券	14,286	5,553
関係会社株式	10,457	12,061
関係会社出資金	6,822	5,975
繰延税金資産	149	175
デリバティブ債権	6,925	—
差入保証金	5,861	6,168
その他	1,860	1,209
貸倒引当金	△208	△184
投資その他の資産合計	46,154	30,958
固定資産合計	61,518	47,295
資産合計	143,802	125,656

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	12,452	11,611
短期借入金	476	641
1年内償還予定の社債	7	7
1年内返済予定の長期借入金	1,692	1,709
未払金	6,167	5,387
未払費用	8,928	11,535
未払法人税等	2,352	1,629
未払消費税等	3,104	3,304
賞与引当金	3,732	3,648
その他	1,897	1,954
流動負債合計	40,812	41,431
固定負債		
社債	39	36
転換社債型新株予約権付社債	10,037	10,032
長期借入金	3,407	1,807
繰延税金負債	3,872	216
退職給付に係る負債	16	17
その他	428	572
固定負債合計	17,800	12,681
負債合計	58,613	54,112
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	29,065	29,065
資本剰余金	18,908	18,287
利益剰余金	37,737	35,950
自己株式	△15,232	△15,233
株主資本合計	70,478	68,070
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,509	615
繰延ヘッジ損益	5,193	—
為替換算調整勘定	△485	△901
その他の包括利益累計額合計	11,217	△286
新株予約権	3	3
非支配株主持分	3,489	3,757
純資産合計	85,188	71,543
負債純資産合計	143,802	125,656

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	116,912	126,640
売上原価	96,355	105,214
売上総利益	20,556	21,426
販売費及び一般管理費	16,791	19,584
営業利益	3,765	1,841
営業外収益		
受取利息	38	37
受取配当金	91	38
為替差益	—	211
その他	156	197
営業外収益合計	286	484
営業外費用		
支払利息	14	19
持分法による投資損失	190	734
為替差損	336	—
その他	143	132
営業外費用合計	685	885
経常利益	3,365	1,440
特別利益		
投資有価証券売却益	694	313
関係会社株式売却益	121	—
持分変動利益	44	109
その他	100	2
特別利益合計	959	426
特別損失		
減損損失	34	6
持分変動損失	—	229
その他	39	65
特別損失合計	74	301
税金等調整前四半期純利益	4,251	1,565
法人税、住民税及び事業税	1,668	1,030
法人税等調整額	△154	95
法人税等合計	1,513	1,125
四半期純利益	2,737	439
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	201
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,735	238



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	2,737	439
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,630	△5,874
繰延ヘッジ損益	4,338	△5,193
為替換算調整勘定	△2,255	△241
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,582	△173
その他の包括利益合計	△6,130	△11,482
四半期包括利益	△3,392	△11,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,387	△11,265
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	222

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,251	1,565
減価償却費	879	1,024
減損損失	34	6
のれん償却額	240	253
無形固定資産償却費	335	388
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△383	32
賞与引当金の増減額(△は減少)	134	△204
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	0	1
受取利息及び受取配当金	△129	△75
支払利息	14	19
為替差損益(△は益)	336	△211
持分法による投資損益(△は益)	190	734
固定資産除却損	31	9
投資有価証券売却損益(△は益)	△694	△313
投資有価証券評価損	0	—
関係会社株式売却損益(△は益)	△121	—
関係会社株式評価損	5	56
持分変動損益(△は益)	△44	119
段階取得に係る差損益(△は益)	△99	—
売上債権の増減額(△は増加)	△94	819
たな卸資産の増減額(△は増加)	△198	△66
仕入債務の増減額(△は減少)	504	△872
未払消費税等の増減額(△は減少)	△313	196
その他	544	1,325
小計	5,427	4,809
利息及び配当金の受取額	132	87
利息の支払額	△8	△20
和解金の受取額	—	10
法人税等の支払額	△2,339	△1,670
法人税等の還付額	—	560
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,212	3,777

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△373	△434
定期預金の払戻による収入	417	454
有形固定資産の取得による支出	△1,196	△1,929
無形固定資産の取得による支出	△690	△536
投資有価証券の取得による支出	△104	△516
投資有価証券の売却による収入	935	580
関係会社株式の取得による支出	△4,949	△1,454
関係会社株式の売却による収入	402	0
差入保証金の差入による支出	△461	△584
差入保証金の回収による収入	131	295
貸付けによる支出	△774	△504
貸付金の回収による収入	50	434
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△882	△39
その他の支出	△45	△146
その他の収入	3	49
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△7,536</b>	<b>△4,333</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	28	542
短期借入金の返済による支出	△89	△379
長期借入れによる収入	45	100
長期借入金の返済による支出	△186	△1,691
社債の発行による収入	48	—
自己株式の売却による収入	999	0
配当金の支払額	△2,301	△2,154
非支配株主への配当金の支払額	△20	△38
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,957	△532
その他	△88	△113
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,522</b>	<b>△4,268</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,102	△24
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△8,948</b>	<b>△4,848</b>
現金及び現金同等物の期首残高	33,339	33,422
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,607	737
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	45	—
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>26,043</b>	<b>29,311</b>

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	93,554	7,276	16,081	116,912	—	116,912
セグメント間の内部 売上高または振替高	119	1,990	933	3,044	△3,044	—
計	93,674	9,267	17,015	119,956	△3,044	116,912
セグメント利益 または損失(△)	3,942	212	△406	3,748	16	3,765

(注) 1 セグメント利益または損失(△)の調整額16百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	98,968	7,341	20,330	126,640	—	126,640
セグメント間の内部 売上高または振替高	120	2,220	1,841	4,182	△4,182	—
計	99,089	9,561	22,172	130,823	△4,182	126,640
セグメント利益 または損失(△)	1,952	220	△331	1,840	0	1,841

(注) 1 セグメント利益または損失(△)の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。